

「労務費見積り尊重宣言」の 実施要領を策定

「労務費見積り尊重宣言」

日建連会員企業は、建設技能者の賃金を全産業労働者平均レベルに近づけていくため、一次下請企業への見積り依頼に際して、内訳明示が進んできている法定福利費に加えて労務賃金改善の趣旨に叶う適切な労務費（労務賃金）を内訳明示した見積書の提出要請を徹底し、当該見積りを確認した上でこれを尊重する。

日建連は、昨年九月、「労務費見積り尊重宣言」を行い、適切な労務費を内訳明示した見積書の提出要請の徹底・尊重をすることとした。これは、昨年三月、石井啓一国土交通大臣から日建連をはじめとした建設業関係四団体に對して、「建設業の担い手の給与引き上げを目に見える形で進め、…中略…現場の技能者まで給与が確実に行き渡るよう、各団体には更に思い切った具体的な取組みの実施をお願いする」という要請があったことを踏まえたものである。担い手の確保・育成に向けた建設技能者の処遇改善は建設業界にとって喫緊の課題であり、日建連は「労務賃金改善等推進要綱（二〇一五年決定）」に基づき、公共工事において設計労務単価表を添付した上で見積りを徴収するなどの取組みを行ってきた。こうした取組みの結果、建設技能者の年間賃金総支給額は上昇しているが、全産業労働者平均という目標には現在でも

約二割の開きがある。こうした状況を改善するために、宣言に基づき、まず、各専門工業者が積極的に給与の引き上げを行い、元請企業に対して必要な労務費を明確にした見積りを提出し、それに応じて元請企業が適切に支払うという好循環が広がっていくことが期待される。日建連は、昨年十二月に、宣言実施の具体的手順等を定めた実施要領を制定し、材工複合単価による見積りが主流である中での労務費明示の方法、見積書の位置づけ等につき、具体例やQ&Aを交えて示した。今後は、会員各社において今年度中に準備をしていただき、二〇一九年度には実行可能な方法・範囲で実施、二〇二〇年度以降、順次取組み範囲を広げ、二〇二三年度に宣言に基づく取組みが全職種・全国で一般化することを目指すこととしている。

◆「労務費見積り尊重宣言」実施要領は下記ページをご覧ください。
<https://www.nikkenren.com/sougou/ikusei.html>
 →関連する日建連策定文書

第三三三回新春懇談会を開催

日建連は一月二十四日、東京・大手町の経団連会館において新春懇談会を開催した。有識者や報道関係者と日建連幹部が懇親を深めるため毎年開催している新春懇談会も、今年で第三三回目となる。

冒頭、山内隆司会長が、「日建連では、『統一土曜閉所運動』をはじめとする週休二日の実現と建設キャリアアップシステムの普及・推進を本年度の二大事業と位置づけ、業界の命運をかけて邁進している。引き続き、担い手の確保・育成と生産性革命の貫徹を目指して、産業基盤の一層の強化に努めていきたい」と挨拶した。

次いで、最近の日建連活動を紹介する動画を上映。働き方改革の推進に関する様々な取組みと、昨年の夏に開催したけんせつ小町活躍現場見学会の様子をまとめた映像に懇談会の出席者は熱心な表情で見入っていた。

続いて、(二財) 国土技術研究センター・国土政策研究所所長の大石久和氏が、平成以降の日本が経済成長できていないことや政府による「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」などに触れ、インフラ整備の重要性について発言した後、乾杯の発声を行い懇談に移った。会場には、「けんせつ小町活躍現場見学会の参加者による絵日記」「第五九回BCS賞受賞作品」の二種類のパネルが展示された。絵日記は、今年度の見学会で初めて行った試みであり、参加した子供たちが建設現場で感じたことやけんせつ小町たちとの触れ合いが丁寧に描かれている。

当日は四四〇名以上の有識者や新聞・雑誌等の報道関係者、日建連会員が出席した。熱心な意見交換と交流が繰り返される会場内で、女性の出席者も多数見られ、盛況で華やかな雰囲気にも包まれた懇談会となった。



主催者挨拶をする山内隆司会長



乾杯挨拶をする大石久和氏



立錫の余地もないほどの出席者であふれた会場内で、最近の日建連活動に関する動画が上映された。



絵日記パネルの前に懇談する出席者たち